

知ろう・つながろう 渋谷の居場所⑤

～“地域”の中の居場所～

4回にわたってお送りしてきた“居場所”シリーズ。まとめに入る前に、渋谷区笹塚の商店街の一角に所在する「笹塚十号のいえ」を取材してきました。

●笹塚十号のいえとは？

京王線「笹塚」駅から徒歩数分の距離にある十号通り商店街の一角に、今年の2月15日、地域に開かれた居場所を作りたい、誰でもふらっと立ち寄れる場所を作りたいという人たちの想いの元、「笹塚十号のいえ」が誕生しました。元々ここは八百喜代という八百屋さんが営まれていましたが、2023年5月に惜しまれながら閉店。この場所を地域の交流の場所にしたいという商店街の人達の声が挙がり、2020年から「ささはた まちのお手伝いマネージャー」の活動をされてきた一般社団法人 TEN-SHIP アソシエーション(※¹)の戸所信貴さんらがクラウドファンディングを募ったところ、目標金額の360万円を大きく上回る443万5千円を達成し運営を開始。「笹塚十号のいえ」(以下十号のいえ)とはどんなところでどんな取り組みをしているのか？戸所さんに松本と武井の2名でお話を伺いました。

Q-福祉作業所の方達と運営を一緒にされていると伺いましたが、普段どのように障がいのある方たちとかかわっていますか？

戸所さん 運営メンバーとして、福祉作業所の方達(4施設：福祉作業所ふれんど、

アトリエ福花、ストライドクラブ、ワークささはた)を含め合計10団体関わっていて、家賃を10分の1ずつ皆で払っています。それとは別に、ここで10団体の方がどういうことができるか、どういう風にこの場所を使っていくかを運営会議で検討しながら、妄想、模索しながらやっています。商店街のど真ん中なので人通りがすごく多いんですね。そういう中でインクルーシブ、皆で一緒に垣根ない場所を体現したいという思いがありました。障がいのある人がここに来たらとってこちらが特別な配慮をするのではなく、普通に障がいを持った方がふらっと入ってきて下さるんですよ。こちらで意図したことではなく、作業所の方がこういう場所ができたよと紹介してくれてお越しになったのかなと思います。ある方はほぼ毎週火木土と来られます。火曜日1回だけ来なくても「最近〇〇さん来ないね」と心配になります。2回続けて来ないと「どうしたんだろう」と思ったりとか、来ないことをスタッフ間で共有したりします。障がいを持った方が誰かと一緒に付き添われてという場合もあるし、一人で来られる方もいます。障がいを持つ常連さんでいうと10人ぐらいいます。何をするといいのではなくメインはおしゃべり。コミュニケーションのきっかけとしてオセロとか将棋、けん玉とか、ルービックキューブを置いています。誰でも少し触れるものをあえて置き、それを通じてコミュ

※¹「一般社団法人 TEN-SHIP アソシエーション」：課題を抱える家庭と支援機関との間に立ち、それぞれにとって真に必要な支援や生きがいを感じられる居場所をつなぐお手伝いをする一般社団法人

ニケーションを取ったり、なぞなぞ大会が始まったりと、家族の団らんのような感じで過ごしていますね。

Q-どのような活動をされていますか？

戸所さん 私がやっているささはたカフェ(※²)は10年ぐらいなのですが、ここでも同じ取り組みを行ったり、ボッチャを皆でやったりしています。その時は沢山の人が来てくれて通りがかりの人も参加してくれました。あとは、チャイ(ミルクティ)を淹れる会だとか展示会もしています。アニメが好きな方がいて、ロボットアニメを語る会を集まってやりました。そういうことを今後していきたいと思っています。大谷翔平さんが出ている試合を皆で観るパブリックビューイングのような会をやった時はなかなか試合が終わらなくて23時くらいに終わりました。上がアパートなのであまり大騒ぎできないというところが一つ問題ではありますが。また、イベントではないのですが、オープンダイアログ(=複数人との開かれた対話)を実施しました。

これから何をやっていくかはお話しいただければやっていきたいと思っていますが、例えばアクセサリーを売りたいとか何か営利目的の展示会をやるとかは今のところお断りしています。地域の人が実費程度でやれるようなワークショップなどを考えています。イベントというのも一つの趣旨としてやっていければいいなとは思っていますが、基本的には団らんだったり居場所だったり、ぼーっとしていられたりそういう場所を提供していきたいと思っています。

また、困窮している方に食品を渡すといった取り組みをここで月1回行なっています。フードバンク渋谷(※³)さんがずっとやっている取り組みなのですが、協力してもらって一緒に行なっています。子ども食堂のような皆に開かれた場所ではなく、課題

が多かったり大変だったりする何世帯かにここに来てもらって食卓を囲んでいます。個別子ども食堂ですね。双子や子ども3人を育てるのは大変だとかそういう気持ちを吐露できる。具体的には既に重層的支援体制で行政が関わっている世帯に来てもらっています。

ちなみに私はハートバレーしぶや(※⁴)の非常勤職員なのですが、地域開拓支援コーディネーターという役割で地域にある仕事を超短時間雇用として紹介しています。まちのお手伝いマネージャーをする中で、例えばお年寄りのご夫婦が経営していたアパートで「今まで外のお掃除を自分でやっていたけどできなくなってしまい代わりにお願いできますか？」という依頼がここにきました。こういう仕事は障がいをもった方達ができるなというのを紹介しています。ここ十号のいえもいずれ、もう少し運営が安定したら、朝の準備など何かしら超短時間雇用の仕事を提供できると考えています。

Q-現時点で課題はありますか？

戸所さん 課題はやっぱり、安定した運営をどうやってしていくかということです。収入が飲み物代(1杯100円)しかないの。他の収益をどうやって上げていくか。あとはご寄付いただける方とか企業の方に広くこの場所がある意義をお伝えして、今は1社しかない協賛企業も幾つも増えていけるといいかなと思っています。

Q-戸所さんにとっての居場所とは？

戸所さん 自分がいてもいい場所。地域の中に所属している感じがある居場所ですね。こういう場所を色々な地域に作ったり広めたりしたい。私がしたいというのではなく、ニーズがあれば恵比寿の商店街の方にも皆が立ち寄れるような場所を作りたいという思いに賛同してくれる人がいたら

どんどん仲間として一緒にやっていければいいかなと考えています。ぱれっとさんとも一緒にこれから何かできれば嬉しいです。

武井 私達の近くにもほしいですね。たまり場ぱれっとのイベントでティーボールの練習試合をこの近くでやっているから今後帰りに立ち寄ったりしてみたいです。たまり場ぱれっとの活動はリフレッシュ氷川などの公共施設を借りてやっているのですが、こういう固定の場所があったら楽しいだろうなと思います。おかし屋ぱれっとにも店舗もあるのですが、住宅街の奥まったところにあるので。

戸所さん ここは約100年続いた八百屋さんの跡なんですけど、とうとう閉まっちゃい、目の前のお茶屋さんも80年続いていたのですが閉まっちゃいました。私がずっと仕事をしてきていいなと思ったのは対話がある居場所。地域に所属している感覚が得られる場所。だんだんそういう場所が無くなっていくと単なる通り道だけになってしまう、それを防ぎたいというのも目標の一つです。近くにある富士見丘中学高等学校のボランティア部の方が今後ボランティアしてくれることになっています。聖心女子大学でも授業の一環としてうちと関わりがあります。あとは青山学院大学のボランティアセンターさんですね。学生さんも一緒になってやっています。

松本 色々な年代の方が一緒にできるといいですね。

戸所さん 自分がいてもいい場所というのと、地域の中に所属している感覚を得られる場所。1人で座っていても後ろでしゃべっている人がいることでその空間に所属している感覚もありかなと。

松本 疎外感がない。しゃべっていなくても落ち着いていられて寂しくないと思うよな。

戸所さん そうです。そういう雰囲気がある場所ですね。しゃべりたくない人もいると思うんですよね。

●取材のまとめ（松本）

私たちが取材のため十号のいえの中に立ち寄った際もテーブル席は色々な年代の方で埋まっており、自転車で訪れたおばあちゃんが大きな明るい声で「〇〇さんこんにちは！」と店内にいる人に話しかけていました。「この場所が最初から友達同士ではなく、一人で来て知り合いが増えていき知らない人同士が友達になっていくことを意図しています」と戸所さんがおっしゃっていたのですが、（もしかしてこの方達も、ここで知り合わなかったら赤の他人同士だったのかもしれない）と思うと、その光景を見聞きしていた自分の心が和やかになりました。いえの前にはベンチが置いてあり、初めて来た人も入りやすいようにというスタッフの方の配慮がとても伝わりました。

自分のことを気にかけてくれる人が家族や友達以外にいること、それが自分の住む地域に住むご近所の方であれば、何か困ったことがあった時に心強い味方になるでしょうし、「遠くの親戚より近くの他人」ということわざがありますが、この居場所が日本のいたるところに広まれば、みんなで助け合って共に生きていくに社会になっていくことができると心から思いました。

（たまり場ぱれっと 武井 琴美）

（おかし屋ぱれっと 松本 亜沙子）



◀【一般社団法人
TEN-SHIP アソシエーション
戸所信貫さん】

※³「フードバンク渋谷」：食品を企業や個人から提供してもらい、支援を必要としている方に無償で渡すなどの活動をしている団体

※⁴「ハートバレーしぶや」：障がいのある方の仕事や生活に関する悩みを聴き、一人ひとりに合った情報提供や支援、場所をつなぐ団体